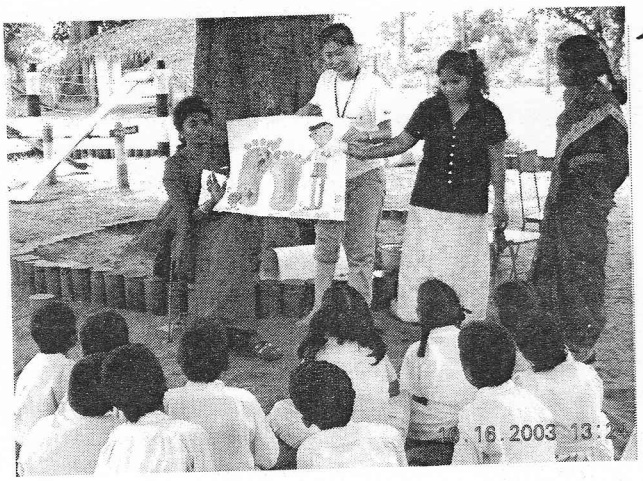
国際協力の現場から●正会員団体紹介

◆◆◆AMDA（アムダ）◆◆◆

平和を阻害する紛争、災害、貧困に苦しむ人々を支援します



特定非営利活動法人　AMDA（アムダ）

スリランカ：スリランカ医療和平事業担当
丸山　尚人

ネパール：ネパール事業国内担当
中嶋　秀昭

■スリランカ医療和平プロジェクト開始から半年

スリランカは20年間におよぶ内戦により、2002年1月の時点では80万人におよぶ国内避難民が北部を中心に存在し、その半数以上が現在も再定住を果すことができないでいます。また、南インドに向かった避難民は8万人を超え、その帰還の詳細は明らかでありません。

帰還できない主な理由は、第1にジャフナ半島を中心に北東部地域各地が政府軍関連施設としてHigh Security Zone（HSZ）に指定されており、一般の人々はアクセスできない状態であること、また、ジャフナ半島はもともと漁業が盛んであったが、漁場にいたってもHSZとなっているため、帰還後の生活も困難を強いられている点であります。第2の理由は、地雷ならびに不発弾の散在である。キリノッチを中心とした北部地域周辺には20～30万の地雷が埋まっており、除去には今後10年は必要と言われています。

地雷撤去作業
（スリランカ北部地域）

AMDA医療和平プロジェクトは、北部を中心に昨年3月より、ヴァヴニア、キリノッチ地区において合計11箇所で巡回診療を実施し、診療延べ人数は1万人に達しようとしています。中には国内避難状況を繰り返している患者も少なくありませんでした。現在まで、タミル系イギリス人医師をはじめ、カンボジア、バングラデシュそして日本からの医師が、また11名の日本人看護師が厳しい環境に対応しながらも活動しています。またプロジェクトのもう一つの柱である、AMDA健康新聞も第13号まで発刊しました。AMDA健康新聞はタミル・シンハラ・英語の3言語表記に、地元小学生の絵を交えて健康や予防保健の情報を提供するとともに、平和のメッセージを添えて南部や北部にて4,000部発行しています。

スリランカ北部で巡回診療を行う
AMDA派遣看護師

現在、北部地区周辺、特にキリノッチ地区では病院の建設が国際機関やJICAなどにより着実に前進する一方で、医師や看護師が数名しかいません。また、電気供給が一日数時間と制限されているため病院としての機能を果たしにくいという状況にあります。今後、医療和平プロジェクトはさらに交通アクセスが悪く、医療に接する機会の少ない地区へと、北部を中心に巡回診療のサイトを増やしていく予定です。加えて、電気の安定供給が進まない状況に鑑み、ソーラーパワーの設置支援を検討しております。

日本ではスリランカに関する報道が極めて少ないのが現状ですが、若い日本の仲間たちが厳しい環境の中で和平を確実なものとするため、医療の分野で汗を流しています。日本の皆さまからの温かいご支援をお願い致します。

特定非営利活動法人　アムダ
〒701-1202　岡山県岡山市楢津310-1
TEL/086（284）7730　FAX/086（284）8959
E-mail ： member@amda.or.jp
ＵＲＬ：http://www.amda.or.jp

左ページ上：紙芝居による保健衛生教育を行うＡＭＤＡ巡回診療スタッフ（スリランカ北部地域）
右ページ左：ネパール子ども病院において新しい家族の誕生を喜ぶ子どもたち
右ページ右：スリランカ医療和平プロジェクトに参加したタミル系医師

＊５周年を迎えるネパール子ども病院

2003年11月２日にネパール子ども病院が設立５周年を迎えました。1998年11月の開院以来、首都カトマンズ以外では唯一の産婦人科・小児科専門病院として、ネパール西部の女性、子どもたちのために適切な医療サービスを提供、またそのサービス向上に努めてきました。

2001年には新小児病棟（篠原記念小児病棟）を開設し病床数が倍増し、新生児・小児特別治療室が稼動しました。そして今年７月には分娩サービスの開始（1999年11月）以来、6千人目の赤ちゃんが誕生しました。地域の人々からの病院に対する信頼が高まり、現在、１ヶ月平均約４千人の外来患者、約450人の入院患者の診療を行い、また、１ヶ月平均約180件の分娩を取り扱っています。

ネパール子ども病院ではいくつかの新しいプログラムを始めました。ひとつは女性に優しい自然分娩の哲学・技術の伝達です。ネパール子ども病院でも母子の身体的健康面、精神的充足を重視した分娩を行うため、日本から派遣した助産師がスタッフに指導を行いました。また6月には妊産婦の安全と胎児の健やかな成長のために妊婦検診外来を開設しました。ネパールでは妊婦検診受診率が28%（1995年～2001年のユニセフ統計）で、まだまだ多くの女性に妊婦検診の重要性を訴えていく必要があります。

そこでふたつめは保健衛生教育活動を通して、村落の女性たちに妊産婦検診の必要性を伝え、さらには地域に密着したヘルスポストの母子保健専門家に妊婦検診や母子保健についての指導を行っています。また出産介助の担い手である伝統的助産婦に妊娠・分娩・産後の母子保健に関するトレーニングも行っています。そして母子保健専門家、伝統的助産婦がともに妊婦の健康状態を正しい知識をもって見守り、妊婦が定期的な検診を受けるよう促し、異常が見られる場合には病院にスムーズに搬送できるような地域と病院の連携体制を整えたいと考えています。

他に産褥婦に対して、母体の安全な健康管理と生まれた子どもの健全な発育のために母親学級を開設したり、ネパール国内の国際機関、医療従事者養成施設、病院などから医療従事者を受け入れ、医療・看護技術のトレーニングを行ったりすることを計画しています。

これからも私たちAMDAやネパール子ども病院の職員は地域の女性たち、子どもたちの健康保健の向上のために邁進します。そしてこれまでの皆さまの温かいご支援にあらためて感謝し、今後の活動の充実を新たに誓いたいと思います。

ネパール子ども病院：日本からの派遣看護師による母子保健に関するトレーニング。清拭指導を通して不潔が原因で発症する感染症について予防保健教育を行う